

東北公益文科大学大学院

GUIDEBOOK 2025

公益学研究科

公益学専攻 修士課程

公益学研究専攻 博士後期課程

「学」と「社会」を結び付け、
公益社会を実現する



東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science



大学設立宣言 使命・理念 教育研究上の目的

ホームページにてご覧いただけます



大学設立宣言



理念・使命



教育研究上の目的

社会変革期に求められる 学際的な知識、スキルを修得し、 公益社会実現に向けた研究に取り組む



公益学研究科長
武田 真理子

山形県庄内地域の産業界、自治体、市民の応援と協力を得て、東北公益文科大学大学院が鶴岡市に開設されてから20年が経ちました。世界で唯一の公益学の研究・教育拠点として、これまでに167名の公益学修士と5名の公益学博士を輩出しています。修了生は大学院で修得した専門知識と研究成果を活かし、行政、民間企業、NPO法人、教育機関をはじめ、様々な現場で課題解決に取り組み、活躍されています。

2022年度（令和4年度）からは、公益社会の実現に向けた「学」と「社会」を結びつけるための大学院改革に取り組んでおり、公益学研究科ならではの学際的な研究、地域連携・社会連携に基づく実践的な学びに取り組む大学院生への丁寧な指導と、きめ細やかな支援のための体制を強化しています。社会が大きく変革している現在、生涯にわたり学び続けること、そして自身の問題意識に基づいて研究に取り組むことの意義が高まっています。是非、本学大学院の資源を最大限活用し、皆さんの未来を切り拓いてください。

特 色

◆ 学際教育・学際研究を実現するための研究指導体制

修士課程には、組織経営領域、国際関係領域、情報科学領域、地域共創領域の4つの研究領域があります。自らの専門とする領域を選択し、研究の柱となる学問への理解を深めるとともに、それ以外の領域の科目も履修（クロスオーバー履修）することで、学びの幅を広げます。研究の中心となる「演習」については、1年次に異なる専門の教員2名から指導を受けることが可能です。博士後期課程では、教員3名によるグループ指導を行います。

◆ 産学官の連携による研究・プロジェクトにより 地域課題解決を目指す

修士課程には「発展科目」を設け、産学官の連携・協働に基づく共同研究や課題解決プロジェクトへの参画を通して、課題の解決に必要とされる異なる主体との共創力、実践力、異文化や多様な価値観に対する理解力等を身に付けます。

◆ 修士課程にスクールソーシャルワーク教育課程 を設置

全ての子どもが通う学校を基盤とし、自治体や児童相談所など複数の機関と連携して児童・生徒の抱える問題を解決に導くスクールソーシャルワーカー。本学大学院では、修士課程にスクールソーシャルワークを専門的に学べる教育課程を設置しています。所定の単位を修得し修了した方には「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定 スクールソーシャルワーク教育課程修了証」が交付されます。

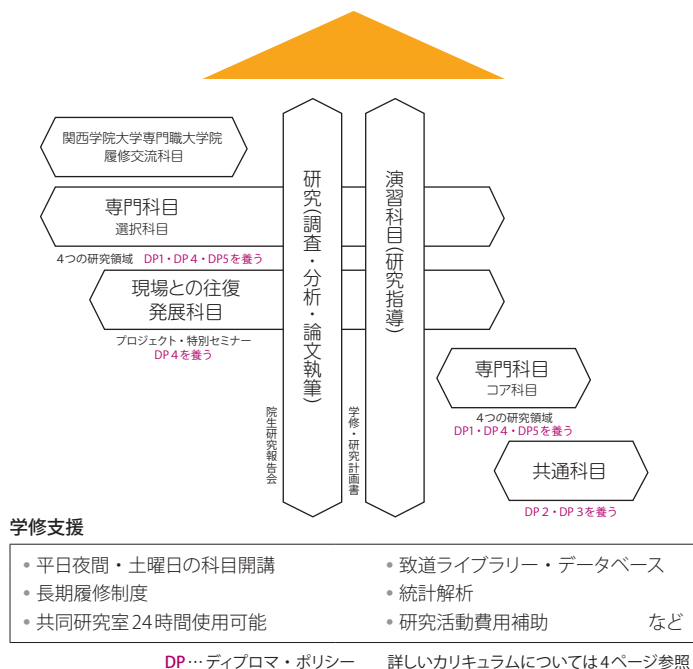
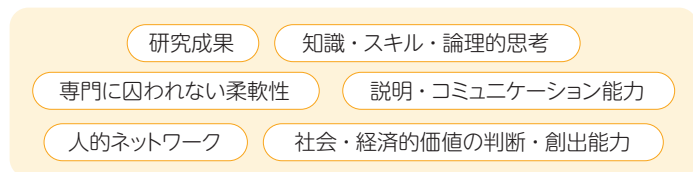
◆ 多様な学び方が可能

平日の夜間や土曜日を中心に授業を開講しています。「長期履修制度」や相互にやりとりをするオンライン授業も整備しており、働きながらでも研究に勤しむことができる環境があります。

入学者には大学を卒業したばかりの若者だけでなく、働きながら学ぶ方も多く、多様な職業の人と共に学びを深めます。



大学院修了



大学院入学



必要な単位数を修得し、次の知識・能力を身につけた人材に学位を授与します。

- DP1** 課題の研究に必要な専門知識及びディシプリン
- DP2** 自ら課題を発見し、課題を客観的に分析し、仮説を構築・検証する能力
- DP3** 課題の解決に向け多様な主体と対話し協働する能力及び社会を先導する力
- DP4** 社会的責任・異文化・多様な価値観に対する深い理解力
- DP5** 既存のシステムに囚われず、新たなしくみを提言できる力

知的基盤社会を多様に支える
高度で知的な素養のある人材

社会変革における課題解決及び価値創造に求められる、公益学を構成するディシプリン、データサイエンス等の基本的リテラシー、多様な主体との対話と協働の技法を身に付け、以下の４つの研究領域において活躍する人材

組織 経営	少子高齢・人口減少社会において、公私を問わず多様な主体の協働による組織経営をリードできる人材
国際 関係	SDGsの達成に向けて多様な主体と連携した国際関係の構築、地域の国際化をリードできる人材
情報 科学	オープンデータ／オープンソースの思想、分け隔てなく情報交換するための意義と基盤技術を理解し、地域のDX推進に貢献できる人材
地域 共創	「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、地域デザインとソーシャルワークの視点から多様な主体と連携した地域共創、地域づくりをリードできる人材 スクールソーシャルワーカーの専門的知識、分析力、実践力を備える人材

公益の視点から新たな学術的知見を開拓・先導する研究者に求められる専門知識、ディシプリン及び研究の方法を身に付け、博士後期課程へ進学する人材

◆カリキュラム

4つの研究領域とスクールソーシャルワーク教育課程

自らの専門とする領域を選択して学問を深く理解するとともに、それ以外の領域の科目も履修（クロスオーバー履修）することで、学びの幅を広げます。

組織経営

国際関係

情報科学

地域共創

スクール
ソーシャルワーク
教育課程

産学官の連携による研究・プロジェクトにより地域課題解決を目指す

「発展科目」を設け、産学官の連携・協働に基づく共同研究や課題解決プロジェクトへの参画を通して、課題の解決に必要な異なる主体との共創力、実践力、異文化や多様な価値観に対する理解力等を身に付けます。

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科と履修交流協定を締結

MBA教育を行う経営戦略専攻（ビジネススクール）と公認会計士等の職業会計人養成のための会計専門職専攻（アカウンティングスクール）を擁する関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科と履修交流協定を結んでいます。指定の科目を履修し単位修得した場合、本学大学院の修了単位に認定されます。

科 目 区 分		研 究 領 域 お よ び 科 目 名			
共 通 科 目	必 修 科 目	公益学総論 論文作成法 共創の技法			
	選 択 科 目	情報基礎 統計学 社会調査論 哲学 倫理学			
専 門 科 目		組織経営領域	国際関係領域	情報科学領域	地域共創領域
	コ ア 科 目	組織経営研究1 (経済学)	国際関係研究1 (国際関係論)	情報科学研究1 (公益情報システム)	地域共創研究1 (公共性の社会学)
		組織経営研究2 (経営学)	国際関係研究2 (多文化共生論)	情報科学研究2 (人工知能特論)	地域共創研究2 (社会政策論)
		組織経営研究3 (組織論)	国際関係研究3 (比較文化特論)	情報科学研究3 (多変量解析)	地域共創研究3 (ソーシャルワーク論)
		組織経営研究4 (法学)	国際関係研究4 (グローバル・ガバナンス論)	情報科学研究4	情報科学研究4 (地域デザイン論)
	選 択 科 目	組織経営研究a (財政学)	国際関係研究a (移民・難民論)	情報科学研究a (プログラミング特論)	地域共創研究a (ソーシャルキャピタル論)
		組織経営研究b (会計学)	国際関係研究b (国際法)	情報科学研究b (人間工学)	地域共創研究b (NPO・非営利組織論)
		組織経営研究c (行政学)	国際関係研究c (環境資源経済学)	情報科学研究c (情報数理)	地域共創研究c (合意形成・コーディネーション論)
		組織経営研究d (政治学)	国際関係研究d (開発途上国の政治)	情報科学研究d (自然言語処理)	地域共創研究d (スクールソーシャルワーク論)
		組織経営研究e (公共政策論)	国際関係研究e	情報科学研究e	地域共創研究e (地域の歴史と文化)
発 展 科 目	スクールソーシャルワーク演習* スクールソーシャルワーク実習指導* スクールソーシャルワーク実習* プロジェクトa プロジェクトb プロジェクトc プロジェクトd 特別セミナーa 特別セミナーb 特別セミナーc 特別セミナーd				
*スクールソーシャルワーク教育 課程受講者のみ履修可能					
自 由 科 目	教育行政* 生徒指導論* 進路指導論* 教育心理学* 教育相談の理論と方法* 精神保健学* 児童・家庭福祉論* 公的扶助論* 教育学*				
演 習 科 目	演習Ⅰ 演習(副) 演習Ⅱ 修士論文指導Ⅰ 修士論文指導Ⅱ				

*スクールソーシャルワーク教育
課程受講者のみ履修可能



カリキュラムポリシー

◆学修・研究のステップ

● 共通科目(必修)

- 論文作成法
- 共創の技法

● 共通科目(選択)

- 統計学
- 哲学 等

● 専門科目(コア・選択)

● 発展科目

● 演習Ⅰ／演習(副)

● 共通科目(必修)

- 公益学総論

● 共通科目(選択)

- 共創の技法

● 専門科目(コア・選択)

● 発展科目

● 演習Ⅰ

- 調査等の実施

● 専門科目(コア・選択)

● 発展科目

● 演習Ⅱ

- 調査等の実施

- 修士論文の執筆

● 演習Ⅱ

- 修士論文の執筆

7月
報告会

11月
報告会

7月
報告会

11月
報告会

1月
論文提出

2年次

1年次

- 年に2回の院生研究報告会において発表を行い、多角的な視点で研究内容を見つめ直します。
- 春学期入学・標準修業年限2年の例です。3年間、4年間の履修も可能です。

◆科目ピックアップ

特別セミナーb

(庄内地域の課題解決と企業経営～事業承継を考える～)

2024年度は「事業承継」をテーマに開講。外部講師を多数招聘し、事業を譲渡する側、事業を受ける側、仲介する側（金融機関）からの問いを受け、少人数でのグループディスカッションを通して、事業承継の理論・スキルの修得を目指しました。

プロジェクトa

(パートナーシップに基づく地域課題解決の推進)

地域の具体的な課題解決を実現するためのプラットフォームの構築、プロセス／プログラム／マネジメント・デザインの実践などを体験的に学修します。

2023年度は、鶴岡市立朝日中学校の全校生徒と地域住民を対象に「地域語り合い」の企画と運営に取り組み、当日は院生がワークショップのファシリテーターを務めました。

◆指導体制

研究の中心となる「演習」については、1年次に異なる専門の教員2名から指導を受けることが可能です。

◆近年の修士論文のテーマ

- ・災害時の児童の避難行動について行政が果たすべき注意義務は何か
— 大川小学校津波訴訟を手がかりとして —
- ・家族介護者支援の実践モデルの提案
— 官民連携型「認知症カフェ」のケーススタディー
- ・明治後期における教育と公益 — 齋藤七郎を事例として —
- ・日本のフェアトレード市場拡大のための一考察
- ・ナシ族トンパ文字自動解析のためのデータセット構築
- ・地域における不登校児童・生徒の居場所に関する研究
— 山形県で展開されているこどもの居場所を対象とした
インタビュー調査を中心に —

◆修了要件

以下のすべての要件を満たした方に「修士(公益学)」の学位を授与します。

- ・本学大学院修士課程に2年以上在学すること
- ・入学時のカリキュラムに基づき、合計30単位以上修得すること(科目区分ごとの要件あり)
- ・在学中に修士論文を執筆し、修士論文審査・最終試験に合格すること

◆長期履修制度

仕事や家庭の都合で標準修業年限の間に修了が難しい場合、申請が認められると在学を3年または4年に延ばすことができます。

授業料は2年分を各年次で分割納付するため、経済的な負担も軽減します。(施設整備費および保険料は対象外)

◆免許取得・教育訓練給付制度

中学校教諭専修免許(社会)・高等学校教諭専修免許(公民)

一種免許状を有している方が必要単位数の修得・課程修了をすると、申請により取得することができます。

教育訓練給付制度

本課程は厚生労働大臣より「教育訓練給付制度」の講座指定を受けています。対象の方が申請することで、最大100,000円の給付を受けることができます。



スクール ソーシャルワーク 教育課程



◆スクールソーシャルワーカー（SSWr）とは

子どもに寄り添う、「チーム学校」における 社会福祉の専門職

学校の教員・養護教諭・事務職員、スクールカウンセラー、教育委員会等と協働しながら子どもと家庭、学校を支えます。いじめや不登校、その他のさまざまな問題に対し、学校の中にとどまらず、地域の多様な人や関係機関とともに、子どものおかれた環境への働きかけを行い、改善を目指します。子どもが元気に学び、成長できる環境を整えるため、子どもと保護者を学校の中と外の両方から支援します。

◆本教育課程の受講資格

修士課程の出願資格を満たし、且つ「社会福祉士」または「精神保健福祉士」の有資格者

※本学学部生については、出願時に上記資格の取得見込みでも可。ただし、資格取得できなかった場合は本教育課程の受講は不可。

◆本教育課程で取得できる資格

本教育課程修了者には、「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定 スクールソーシャルワーク教育課程修了証」が交付されます。

◆修了生の活躍

本教育課程修了者は、複数の自治体（教育委員会）で活躍しています。

横山さん 公益学部卒業・2024年3月修士課程修了

酒田市に福祉職として入庁しました。

在学中は、地方におけるこどもの居場所に関する研究に取り組みました。論文執筆を通して得ることができた知識や考え方は、現在、SSWの専門職としての仕事に役立っています。今後は、庄内地域のこどもの居場所の発展に貢献していきたいです。

◆受講の流れ

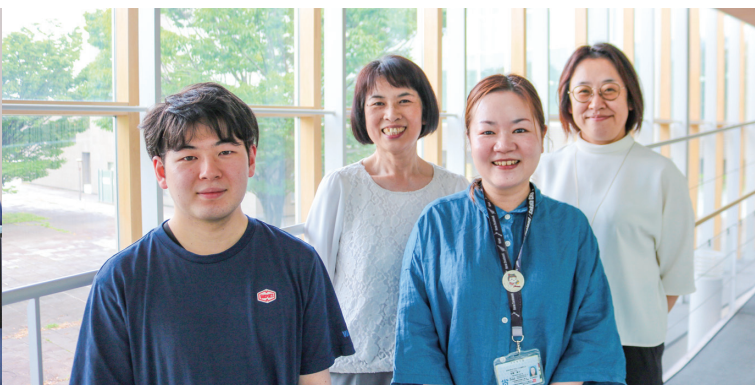
本学大学院修士課程に入学し、修士課程の修了を目指しながら、本教育課程科目の単位を修得します。

1年次 春学期（4月～9月）	1年次 秋学期（10月～3月）	2年次 春学期（4月～9月）	2年次 秋学期（10月～3月）
修士課程・本教育課程の科目履修			
	実習準備・実習		
修士論文の執筆			

◆スクールソーシャルワーク教育課程のカリキュラム

科目名	単位数	履修区分・科目履修の免除			
		SSW 実務経験 2年以上	教職普通免許 保有	社会福祉士 有資格	精神保健福祉士 有資格
地域共創研究d(スクールソーシャルワーク論)	2	必修	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク演習	2	必修	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク実習指導	2	免除	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク実習	2	免除	必修	必修	必修
教育行政※	2	免除	免除	必修	必修
生徒指導論※	1	免除	免除	2単位以上 選択必修	2単位以上 選択必修
進路指導論※	1	免除	免除		
教育心理学※	2	免除	免除		
教育相談の理論と方法※	2	免除	免除		
精神保健学※	2	必修	必修	必修	免除
児童・家庭福祉論※	2	必修	必修	免除	必修
公的扶助論※	2	免除	免除	免除	必修
教育学※	2	履修推奨	履修推奨	履修推奨	履修推奨

※印の科目の単位は、修士課程の修了単位には含まれません。



◆在学生の声

白 畑 さん 修士課程2年・元自治体職員

研究テーマ：スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの連携

佐 藤 さん 修士課程1年・自治体職員

研究テーマ：若者の生きづらさ

相 馬 さん 修士課程1年・公益学部卒業生

研究テーマ：生活保護受給世帯の児童の自立支援

教授 武 田 真理子 [社会政策・公益学]

ゼミ(演習)・研究の様子

武田：ゼミは1週間に1回のペースを基本としています。院生自身のペースで蓄積していくことも重要なのであって間隔を開けることもあります。一方で研究には休みはないので、夏休み・春休み期間も院生にあわせてサポートしています。

佐藤：ゼミでは、事前に先行研究を読んでまとめます。自分がどのような視点で捉えたか、議論したい視点などを含めてみなさんに報告します。私はSSW教育課程の受講生ではありませんが「子どもの福祉」としては共通していますので、他の院生と一緒にゼミをおこなうことで、得られる内容がとても充実しています。

相馬：ゼミでの報告は緊張しますね。毎回武田先生の満足するラインに達しているかが気がかりです（苦笑）。武田先生からは、自分の気づきをアウトプットできるような質問を投げかけられます。

武田：プレッシャーをかけているのでしょうか（苦笑）。私は、院生のみなさんの研究を伴走することを意識しています。私自身が知らないことを院生が調べ、考えています。気づいているのに言葉で表現できていないことや、自信がない・自認しきれないことだけど問題として捉えていることを、ゼミの場では安心して話していただきたいので、遠慮なく質問しています。院生と教員は研究者として対等だと思っています。「子どもの福祉」がゼミ生に共通する研究テーマでも、各々の立場や経験してきたことは異なります。私は実務の経験がないため、院生に気づかせてもらうこともあります。

白畑：私は自治体職員として福祉の業務を担当していました。大学院入学後、文献を複数読んで、そこに共通することを研究テーマに沿って整理していくと、ようやく私が何を明らかにしたいのかが分かってきました。視野が広がったことはもちろん、実務と研究をオーバーラップさせることもできました。「現場」と「研究」の接点がゼミですね。行政組織としての「建前と本音」がある中で働いてきたのですが、研究を通して、社会的に求められる、必要とされることなのかどうかを振り返ることができています。研究を通して得たことは、今後現場に返したいと考えています。

佐藤：本当にそうですね。現場では、調べる余裕もなく、対症療法のようになっていることがあるのが実態です。「なぜ？」と思ったり「肌感覚」でおこなってきたことを学問を通して明らかにし、対応できるようにしたいです。

SSW教育課程の魅力

相馬：私は社会福祉士の資格を目指し公益大に入学しました。社会福祉士といってもいくつかの分野があって、学部2年次にスクールソーシャルワーカーの存在を知り、修士課程に進学して専門的に学ぶことを決めました。公益学部から進学する学生には学費減免の制度があり、これはおすすめできるポイントのひとつです。

武田：SSW教育課程を修了した方が、山形県内で活躍しています。先日はその3人にゼミにお越しいただき現場からの知見を共有していただきました。社会科学の研究対象は「人」と「社会」で、常に変化するものですから、現場のお話は院生のみなさんの研究にも影響しますね。

白畑：今まで積み重ねられてきたことが進化・深化して前進していることが感じられました。この教育課程は、庄内地域・山形県に確実に還元できる、存在意義が大きいと思います。このようなゼミの形式の他にも、先進事例の視察や実習など充実したカリキュラムがあることは魅力的ですね。

入学検討者へのメッセージ

相馬：専門的な知識を身に付けることを目的として大学院に入学しましたが、大学院で多様な人と関わることができました。このことは、自分の疑問を突き詰めて行く中で非常に価値のあることだと感じています。自分と社会を照らし合わせつつ繋がっていくことができる大学院は、学部生にとっても選択肢のひとつになるはずです。

佐藤：自分の学びが、自己完結ではなく地域に還元されるということが、公益大大学院の強みだと思います！

白畑：大学院では、自分が分からないことを「公益」を切り口に明確にし、学問として裏付けることができます。なんとなく「これでいいかな」と思っていることを、学問を通して捉え直す・学びなおすことができます。年齢は問わず、やりたいと思った時がみなさん自身のタイミングです。何歳からでも挑戦できますよ。

武田：この教育課程を通して、ソーシャルアクション・地域への働きかけが起きます。大学院はひとつの「コミュニティ」です。問題意識をお持ちで、それを深めて考えたい・広げて考えたいという方に適しています。特に公益大大学院は、院生・教員・地域のみなさんとの相互作用により、学修・研究が展開できるオープンな大学院だと思います。ぜひ一緒に研究しませんか。

在学生の声 ゼミ紹介



加藤 さん 修士課程1年・自治体職員

教授 小野 英一 [人事行政]

入学のきっかけ・研究テーマ設定

加藤：私は、自治体職員として働いており、派遣研修という形で在学しています。大学院に入学したのは、働き始めて8年目の時です。市職員としての知識は身につけてきたと思う反面、「市職員の視点」だけを養っているのは、物事を客観視できなくなることを危惧していました。プライベートでも、リスキングに興味があって色々探していたところでしたので、丁度よいタイミングで入学できたと思っています。

テーマは「自治体の採用試験」です。研究テーマ検討に際して小野先生に紹介いただいた人事行政の本を読んだときに、人事のルールが学問として詳細に分析されていて「これも学問なのか！」と感銘を受けました。私が漠然と考えていたことが言語化・理論が確立されていることが多くて、腑に落ちるとともに、新鮮さと驚きを感じました。また、自分が受験した頃から自治体の採用試験の内容が大きく変わりつつあることを知り、内容・課題・その解決策を探りたいと強く思いました。

ゼミ(演習)の様子

加藤：ゼミの1年目では、論文・文献を読む先行研究レビューが中心です。内容を要約し、印象や疑問をまとめて先生に報告します。授業の中でアドバイスをいただき、次にどの文献を読むかを決めます。これを繰り返していきます。

小野：アドバイスといっても、意欲的・自主的に取り組んでいることが伝わってきていますので、プッシュするような形ではなく、加藤さんのその気持ちが維持されながら進んでいくようにサポートすることを意識しています。それから、研究の知識・経験が業務に活かされる、業務や行政現場で得た知識・経験・問題意識を研究に活かすという、「業務と研究が活かされ合うこと」を意識してもらいたいと考えています。

入学してから変わったこと

加藤：入学してからは考え方・行動が変わりました。

1つ目は、以前は斜め読みだった公務員用のニュースサイトを、学術的な知見・フィルターを通して読む意識ができました。

2つ目は、多様な意見があること、他者へのアンテナを高く張ることです。「詳しい人・専門家の話が正しい」と思っていたのですが、大学院の授業はディスカッションが多く、全く違う背景から見たときには考え方が180°変わるということを体験しました。考えをすり合わせることも大切ですね。3つ目に、批判を受けることを恐れてあまり意見を言うことができない性格だったのですが、自分の考えを論理的な整合性をもって説明することを繰り返しているうちに、どうすれば他の人に納得してもらえるかが分かってきたため、建設的な議論が楽しいと思うようになりました。

入学前には想像していなかった変化がありましたね。仕事をする上での柱ができて、本当に良かったなと思っています。

院生生活

加藤：仕事をしながら通学しています。現在が入学から2学期目で、週に3科目の授業があります。授業時間分は業務時間を減らすこととなっていて、週に1日は研究に充てて良いという制度もあります。おかげで身体と心の余裕をもって、仕事と研究ができていますと感じています。

小野：仕事と研究の両立は大変重要ですね。どちらかが息詰まってはダメですね。私も働きながら大学院に通学したため、その大変さは実感しています。勤務先の理解は重要ですね。

加藤：そうですね。2年目は論文執筆に向けて大学院にかかる時間が増えると思うので、制度を活用していきたいです。

課題などは自宅ですることが多いですが、必要な情報は図書館だけではなくWebを通して得られますので、場所を問わず学修できます。大学院に行ったときには、同期とは雑談も議論もします。違う視点の話を聞くことができるので大変おもしろいです。

入学検討者へのメッセージ

小野：仕事と研究の両立は簡単ではありません。進学によって、本業もプライベートも一時的にマイナスになることもあるかもしれません。でもそれは一時的であって、長期的に見ればそのマイナス分を優に超えるプラスが得られる可能性があります。大学院には、仕事をとおしては見えないものや得られない経験が多くあります。知識・人的ネットワーク・スキルは当然ですが、そもそもが違う新しい世界が待ち受けています。迷ったら、ぜひ飛び込んでもらいたいです。

安孫子 さん 修士課程1年・公益学部卒業生

北條 さん 修士課程1年・公益学部卒業生

准教授 樋口 恵佳 [国際法・国際海洋法]

公益学部から公益大修士課程へ進学

北條：学部4年生の時、ゼミ担当の樋口先生から修士課程進学への選択肢があることを教えてもらいました。卒業論文を執筆しながらもっと深く知りたい・研究したいという思いが強くなり、大学院オープンキャンパスへの参加や樋口先生から背中を押してもらったことで、大学院進学を決めました。学部で指導していただいた樋口先生に引き続き指導していただけることはありがたいです。それに加えて、学内進学の費用が非常に安いことと、社会人学生が多くいることは魅力でした。学部時代のほとんどがコロナ禍だったので、多様な人と接することができる場を求めています。

安孫子：卒業論文で十分に研究しきれない、と思う公益学部生に、公益大大学院はおすすめですね。私も北條さんと同じように、知っている先生方に引き続き科目やゼミを担当していただけることと、学内進学者の学費減免が充実していることから進学を決めました。私の場合は、学部ゼミに大学院進学した先輩が複数いて、早いうちから大学院の情報を得ることができていたので、学部3年次の初夏には自分が研究する姿を想像していました。

ゼミ(演習)・研究の様子

北條：私の研究テーマは「サイバー攻撃に関する国際法」です。今はオンラインで指導していただいています。最近のゼミでは、研究テーマに関する議論を把握するため、先行研究をまとめてレジュメを作成し、その内容を報告しています。

樋口：そのレジュメを元に私から北條さんへ毎回質問をしますが、北條さんはうまく答えられることが多く、きちんと読んでできていることが伝わります。

北條：ゼミの直前は不安ですが、始まってみればあっという間ですね。実は、レジュメの他に想定問答も準備していて、答えられたときには達成感があります。もちろん、まだまだ分からないことも多く、答えに辿り着くまでは樋口先生にヒントをいただき、自分自身が納得するまでじっくり考えられるようにフォローしていただいています。オンラインでの指導は、同じ資料の特定の箇所と一緒に確認することができるので、スムーズに進みます。

樋口：北條さんは大変複雑なことに取り組んでいると思いますし、指導している私もアドレナリンが出ます(笑)。そのくらいやりがいがありますね。



まだ運用が固まっていない分野の研究なので、北條さん自身の考察が非常に重要になります。それを今後、分析・検証してもらえればと思います。

安孫子：私は「核軍縮と人道的アプローチ」をテーマに研究しています。学部卒の卒業論文のテーマも核軍縮でしたが、違う視点での研究を目指しています。核兵器は、主要国だけでは議論しにくいテーマです。自分の研究が国際社会づくりに貢献できるレベルまで深められるといいなと思っています。

樋口：入学後すぐの今の時期は、核兵器禁止条約のコメンタリー（専門家の解説）を読みながら、「人道的アプローチ」という言葉の定義や用法—どのよう人が、どのような使い方をしているのかを確認しています。まずは安孫子さん自身が核兵器禁止条約の専門家になるところからスタートしてもらっています。

安孫子：コメンタリーは英語で書かれているため、自分自身で訳しきれなかったところを、先生に解説いただき、内容として理解できない部分は、その場で一緒に調べるなど、丁寧に寄り添った指導をいただいています。学部時代より理解が深まっていることを実感しています。

樋口：他の科目の課題もある中で、良いペースで読み進めていると思います。まとめかたも上手ですね。

安孫子：連続して何時間も課題に取り組むことはなくて、授業の合間の90分にやるなど、あえて短時間で集中して取り組んでいます。それから、1人よりも誰かの目があるところのほうがいいですね。共同研究室に他の院生がいて、集中している姿を見ると、私もスイッチが入ります。ローカルな地域にいても最新の情報や十分な量の論文を読むことができますので、良い環境で研究ができていると思います。

院生・入学検討者へのメッセージ

樋口：現在指導している2人には、大学院という学び・研究の場を選択してくれてありがとう、と思っています。研究は孤独と葛藤との闘いです。計画通りに進まないこともあります。悩むことは真摯に取り組んでいる証拠です。自分自身に向き合いながら研究をするという、尊い時間を満喫してもらいたいです。

石川さん 修士課程1年

鶴岡市出身・県外企業で約30年間エンジニアとして勤務

教授 門松秀樹 [政治史・政治学]

大学院入学のきっかけ、公益大大学院を選んだ理由

石川：旅行が趣味で、以前から観光について学びたいと思っていました。観光について考えていく中で、自分の中に観光を通じて地域を活性化させたいという思いがあることに気づきました。

学べる大学を探していたところ、私のふるさと鶴岡市に公益大大学院があり、日本で唯一、「地域共創」や「公益学」を学べることを知り、すぐにオープンキャンパスに参加しました。その後、現在指導をいただいている門松先生との入学前面談とおして、入学する意思を固めました。

ゼミ(演習)・研究の様子

石川：研究テーマは、城跡を活用した観光施策です。

門松：まずは城跡の観光資源化の観点から、現存天守や模擬天守など、城跡にどのようなタイプがあるのかを調べてもらいました。また、観光収益と維持コストが地域に与える影響を算するためにデータを集めてもらっています。

石川：私は旅行の他に、お城や城下町を散策することも好きなので、今まで見てきたお城の知識を研究に活かすことができている。前職はエンジニアだったので、その知識はデータ分析等に活用できています。門松先生と話す

ことで研究がより深まっていき、とても充実しています。先行研究がほとんどない分野なので、収益性をどう論文化できるか探っている日々です。

院生生活

石川：研究を進めることに加えて、他の科目の課題レポートにも追われています。社会人になってから、仕事で本や論文を読んでまとめるということはありませんでした。読み進めたときに、社会人だからこそ気にかかることもあり、時間がかかりますね。入学から2ヶ月経ってようやく慣れてきました。学部を卒業したばかりの学生からも刺激を受け、なんとか頑張っています。

今後の展望

石川：自治体に政策提言できるレベルの修士論文が執筆できたらいいなと考えています。研究を通して山形県・庄内地域を全国にPRしたいですね。ただ、修士論文の執筆・修士号取得はゴールではありません。大学院での学修をとおして、自分自身を高めていきたいです。

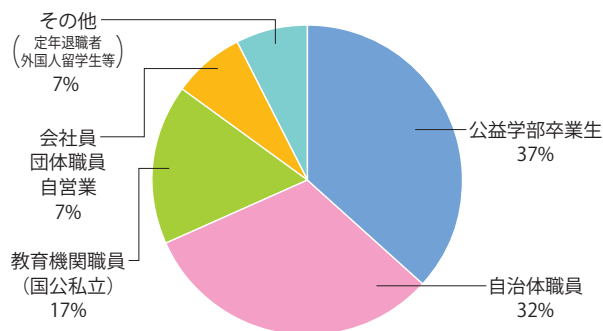
入学検討者へのメッセージ

石川：以前からずっと学びたいという意欲はあり、その機会を探していました。そして公益大大学院を知り、私にとっては大きなチャレンジでしたが、入学を決意することにしました。今、学びの場に身を置いて、見える世界が広がりましたし、充実した日々を送ることができています。みなさんも「興味・関心への想い」はあきらめずに持ち続け、その機会が来たときには、ぜひチャレンジしてほしいです。

門松：初めて本格的に学問に触れる学部とは違い、特定の分野・領域を専門的に研究するところが大学院です。解決したい問題があれば、徹底的に突き詰めることができます。公益大大学院で、社会問題とご自身にもっと深く向き合う機会を設けてみてはいかがでしょうか。

多様な学生が共に学び・研究しています

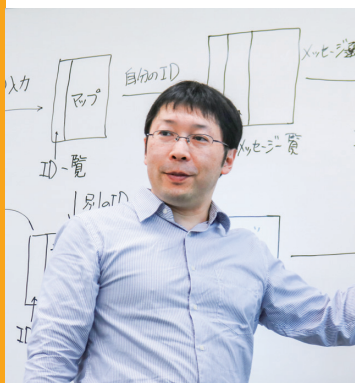
修士課程：2019年度から2024年度春学期までの入学者



公益大大学院での学び・学生生活は、ご自身のワークキャリアやライフキャリアにどのように役立っていますか？

- 論理的な思考(ロジック、モデル等)や、統計的分析の視点を業務に導入するようになった。
- 学問的な視点から客観的に根拠を持って物事を捉える考え方が身に付き、仕事にとても役立っています。
- 研究成果が認められ、希望する部署への異動が叶った。
- 講義で一緒に学んだ院生同士の繋がりは、修了後も続いており、業務上のちょっとした相談なども気軽にできています。

博士後期課程



◆ 博士後期課程について

博士後期課程では、誰かに何かを教わるというよりは、自分が明らかにしていきたいテーマに基づいて主体的に研究を進めていくという姿勢が大切になります。指導教員は事細かに研究に関する指示を出したりはしません。自ら研究に取り組み、その上で指導教員の批評や助言を求め、さらに研究を進めていくイメージです。博士後期課程では、自由度が高く、それゆえに自主性が必要となる研究生生活を送ることになります。

◆ ディプロマ・ポリシー

必要な単位数を修得し、別に定める審査基準による博士論文審査に合格した人材に学位を授与します。

◆ 人材育成像

公益の視点から新たな学術的知見を開拓・先導する研究者

◆ カリキュラム

研究テーマに関する高度な専門知識を身に付けるために6つの科目と、研究者としてのキャリアを支援する科目を配置しています。

科目区分	科目名
公益学研究科目	公益学研究 a 公益学研究 b (公共経済学) 公益学研究 c 公益学研究 d (社会政策) 公益学研究 e (自治体マネジメント) 公益学研究 f
キャリア科目	キャリアディベロップメント
研究指導科目	研究指導Ⅰ 研究指導Ⅱ 研究指導Ⅲ 博士論文指導Ⅰ 博士論文指導Ⅱ 博士論文指導Ⅲ



カリキュラムポリシー

◆ 指導体制

「博士（公益学）」が取得できる唯一の大学院です。博士号取得に向けて主研究指導教員1名および副研究指導教員2名から成る研究指導グループの指導により、博士論文を執筆します。学内の「院生研究報告会」だけでなく、学会論文誌への論文投稿や学会発表等を通して研究を深めます。

◆ 過去の博士論文のテーマ

「自治体の人事システム改革に関する研究」
「日本企業における従業員処遇一ケアの倫理による考察一」
「ソーシャルビジネスの評価手法と基盤強化に関する研究」
「A Post-Implementation Analysis of Digital Transformation Regime for E-Governance in Sri Lanka」
「An Analysis of Business Process Reengineering in the Public Service Delivery System of the Government of Sri Lanka」

◆ 修了要件

以下のすべての要件を満たした方に「博士（公益学）」または「博士（学術）」の学位を授与します。（院生が選択できるものではありません）

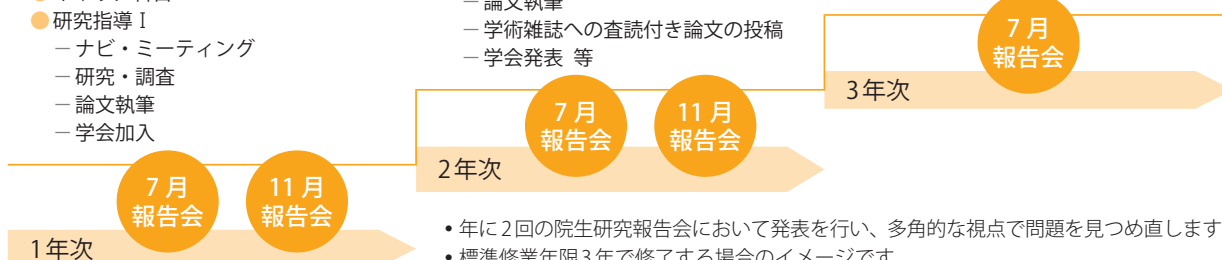
- 本学大学院博士後期課程に3年以上在学すること
- 入学時のカリキュラムに基づき、合計16単位以上修得すること（科目区分ごとの要件あり）
- 在学中に博士論文を執筆し、博士論文審査・最終試験に合格すること

◆ 学修・研究のステップ

- 公益学研究科目
- キャリア科目
- 研究指導Ⅰ
 - ー ナビ・ミーティング
 - ー 研究・調査
 - ー 論文執筆
 - ー 学会加入

- 公益学研究科目
- 研究指導Ⅱ
 - ー ナビ・ミーティング
 - ー 研究・調査
 - ー 論文執筆
 - ー 学術雑誌への査読付き論文の投稿
 - ー 学会発表 等

- 研究指導Ⅲ
 - ー ナビ・ミーティング
 - ー 研究・論文執筆
 - ー 博士論文予備審査
 - ー (予備審査合格の場合) 博士論文審査



- 年に2回の院生研究報告会において発表を行い、多角的な視点で問題を見つめ直します。
- 標準修業年限3年で修了する場合のイメージです。

研 究



◆研究指導教員

修士課程または博士後期課程の指導ができる教員を掲載しています。(職位、氏名、専門)
ホームページでは、詳しい内容をご覧ください。



教員紹介



専門分野紹介



リレーエッセイ



学長・教授
神田 直 弥
交通心理学
人間工学



研究科長・教授
武田 真理子
社会政策
公益学



学部長・教授
三木 潤 一
公共経済学
財政学



教授
梅津 千恵子
環境資源経済学
農業経済学



教授
澤 邊 みさ子
社会福祉
障害学



教授
阿 部 公 一
年金教育



教授
呉 衛 峰
比較文学
比較文化



教授
呉 尚 浩
公益学
環境社会学



教授
松田 憲
応用言語学



教授
古山 隆
リサイクル工学
資源処理工学



教授
広瀬 雄二
情報処理



教授
森元 拓
法思想史
法哲学



教授
青木 孝弘
社会起業論
アントレプレナーシップ



教授
山本 裕樹
物理学



教授
門松 秀樹
政治史
政治学



教授
小野 英一
人事行政



准教授
加藤 良浩
現代英米文学



准教授
広崎 心
マーケティング論
経営戦略論



准教授
西村 まどか
素粒子物理学
機械学習



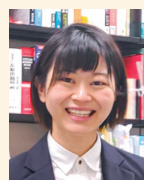
准教授
植田 和憲
情報ネットワーク



准教授
白旗 希実子
教育社会学



准教授
小関 久恵
ソーシャルワーク
社会福祉学



准教授
樋口 恵佳
国際法
国際海洋法



講師
ノヴァコフスキ カオル
自然言語処理
計算言語学

◆学修・研究の支援

昼夜開講制

科目は平日の夜間や土曜日を中心に開講します。修士課程については、8月・2月の集中講義とあわせて、1年次に共通科目・専門科目の単位を修得し、2年次に調査や論文執筆等に集中することも可能です。

研究ブース・ 致道ライブラリー

院生1人につき、ひとつの研究ブース（デスク、ロッカー）が用意され、24時間いつでも利用できます。文献データベースの利用が可能で、致道ライブラリーでは他大学の図書の取り寄せも可能です。

統計解析

調査研究に必要な統計解析にあたり、修士課程には統計に関する科目を設置しています。また、統計解析のソフトウェアも学内で使用できます。

研究活動の費用補助 宿泊費用補助

学会等で研究発表を行う場合の旅費・参加費の補助、山形県庄内地域以外からの通学者に対する宿泊費用の補助等があります。(補助の内容は変更する場合があります。)

オンライン授業

文部科学省が定める「多様なメディアを高度に利用した授業」として、2016年度からオンライン授業を実施しています。(来学が必要な科目等もありますので、詳しくはお問い合わせください。)

入学を検討される方へ

本学大学院への入学を検討するにあたり、大学院の授業・研究はどのような様子だろうか、と心配される方も少なくないと思います。ぜひ下記を利用して、大学院での学びを体験してください。

オープンキャンパス・授業見学

オープンキャンパスへの参加や授業の見学(要事前相談)が可能です。また、一部の科目については、公開講座として地域の方にも公開しています。

教員との面談

本学教員の専門分野は多様です。入学後は研究指導教員から指導を受けながら論文を執筆するため、ご自身の関心がある分野の教員との事前の面談を推奨します。

修士課程 科目等履修生 としての入学

本ページ左下を
参照ください

研究生

在学期間は半年または1年です。特定の研究課題について教員の指導を受けます。詳しくはお問い合わせください。



アドミッション
ポリシー

◆入学試験

日程	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続き期間
第1期	2024年9月2日(月)～10月25日(金)	2024年11月30日(土)	2024年12月6日(金)	2024年12月6日(金)～12月20日(金)
第2期	2024年12月2日(月)～2025年1月24日(金)	2025年2月22日(土)	2025年2月28日(金)	2025年2月28日(金)～3月14日(金)

出願期間・入学手続き期間は、最終日書類必着です。出願資格や書類提出等の詳細については、「入学者選抜要項」を請求の上、ご確認ください。

◆初年度学納金

入学金	200,000 円
授業料	500,000 円
施設整備費	100,000 円
合計	800,000 円

- ・入学金の免除について
本学公益学部卒業生または公益学研究科修士課程修了者の合格者：全額免除
社会人特別選抜合格者：半額免除
- ・2年度以降は、授業料と施設整備費の納付が必要です。
- ・左記の他に保険料の納付が必要です。(2年度分約2,500円、3年度分約3,700円) また、履修する科目で使用する教科書・参考書の購入や、研究に必要な書籍・物品、スクールソーシャルワーク教育課程の実習にかかる費用、フィールドワークの際の交通費等は、院生の自己負担となります。
- ・科目等履修生として単位を修得した方は、申請により授業料の減免が可能です(上限額あり)。
- ・分納や支払時期の変更の相談を承ります。

◆科目等履修生

正科生以外にも大学院で開講する科目の履修を認める制度です。修士課程の科目を1科目から学ぶことができます。複数の科目で1つのプログラムを構成する「履修証明プログラム」もあり、ご自身の仕事等に必要なる理論・スキルの修得に活かすことや、正科生としての入学の前段階にご活用ください。

科目等履修生として単位を修得した後に、本学大学院修士課程に正式科生として入学した場合、修得した単位は正科の修了に必要な単位として認定し、科目等履修料は大学院入学後に授業料から減免することも可能です。(上限額あり)

履修者の声



「大学院では、地方にしながら最前線・最先端の知識を得られますので、履修を通して政策に活かしていきたいと考えています。私にとっては、世代・職種が異なる人と気軽に話せる『サードプレイス』でもあります。」

「授業を通して得た理論やスキルが、実務と結びついています。レポート課題が中心の通信教育とは違い、その場で先生や他の学生と話ができるので、内容の理解が深まります。」



問い合わせ アクセス

- 庄内空港から
車・バス約20分
- 鶴岡駅から
車・バス約10分
- 鶴岡から
車で約10分
- 山形駅から
高速バス約2時間
- 仙台駅から
高速バス約3時間



東北公益文科大学 大学院事務室(鶴岡キャンパス)

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1 TEL 0235-29-0555
HP・URL <https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/>
E-mail gs@koeki-u.ac.jp



大学院HP

本誌の内容はホームページからもご覧いただけます。
また、内容は2024年7月時点のものであり、変更となる場合があります。